

ナゴヤ子ども応援会議 開催記録 教育シンポジウム

～日本で1番子どもを応援するマチ ナゴヤ～



平成28年11月6日（日）

名古屋市教育センター 講堂

目 次

日程	2
第Ⅰ部 教育シンポジウム	3
第Ⅱ部 ナゴヤ子ども応援会議	4
ナゴヤ子ども応援大綱に基づく施策について	4
なごや子ども応援委員会における活動報告について ...	6
パネルディスカッション	7
資料	11
ナゴヤ子ども応援大綱	11

<ナゴヤ子ども応援会議>

法律により全ての地方公共団体が設置することとされた、長と教育委員会で構成される「総合教育会議」の本市における呼称です。この会議は、名古屋市長と名古屋市教育委員会が教育に関する施策の方向性を共有し、ともに推進していくため、本市の教育に関する大綱の策定や、教育の振興に必要な重点施策などに関する話し合いを行います。

<ナゴヤ子ども応援大綱>

法律で市長が策定することとされた、本市の教育の振興に関する目標・方針となるもので、平成27年5月24日開催のナゴヤ子ども応援会議において策定されました。

日 程

【第Ⅰ部】 教育シンポジウム

13:30~14:30

1 開会・教育長挨拶

教育委員会教育長 杉崎 正美

2 講演「生きる力を育てる学力」

明治大学教授 齋藤 孝氏

【第Ⅱ部】 ナゴヤ子ども応援会議

14:45~16:30

1 開会・市長挨拶

名古屋市長 河村 たかし

2 「ナゴヤ子ども応援大綱に基づく施策について」

3 「なごや子ども応援委員会における活動報告について」

なごや子ども応援委員会スクールカウンセラー 前田 悦子

なごや子ども応援委員会スクールソーシャルワーカー 山内 美砂

4 パネルディスカッション

名古屋市長 河村 たかし

教育委員会教育長 杉崎 正美

教育委員会委員 小栗 成男 野田 敦敬 船津 静代

梶田 知 小嶋 雅代

福岡教育大学教授 西山 久子氏

大阪府立大学教授 山野 則子氏

傍聴者数 約400人

【第 I 部】 教育シンポジウム

講演 「生きる力を育てる学力」

講師 齋藤 孝氏（明治大学教授・教育学者）

東京大学法学部卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程等を経て現職。

専門は教育学、身体論、コミュニケーション論。

著書「声に出して読みたい日本語」はシリーズ260万部のベストセラー。



写真提供：草思社

講演では、近年の子どもたちの心身の発達の様子の変容とそれに伴う様々な困難についての考察と、そういった困難を抱える子どもたちを支えていくために「雑談力」「質問力」などをキーワードにした講話や、本邦の先達の精神文化の強靱さとそれを形成するために行われてきた素読の習慣など「言葉の力」についての講話がありました。

聴衆も、実際に声に出して優れた日本語を読むなど興味深く引き込まれている様子でした。



【第Ⅱ部】 ナゴヤ子ども応援会議

◆ナゴヤ子ども応援大綱に基づく施策について

ナゴヤ子ども応援大綱の4つの柱について、以下のとおり説明を行いました。

「教育」を「Education」へ！

「教」の字の「友」にはムネの意味が入っているといわれている。子どもを型にはめるのではなく、「Education（e＝外へ、ducere＝引こぼること）」の精神のもとで、「教え込む」授業ではなく、「子どもが考え、自ら学ぶ」授業を推し進め、子どもたちに内在于する生きる力を引き出し、人生を応援します。



主体的・対話的な学習を通じ、
社会で活躍するための幅広い学力を
育てます。

第一の柱「『教育』を『Education』へ！」では、子どもたちが自ら課題を解決する生きる力を育てるよう、従来型の一斉授業だけでなく、主体的・対話的な学習活動を通じて、社会で活躍するための幅広い学力を伸ばす取組を行っています。

第二の柱「『なごやっ子』の育ちと針路を応援する仕組みを確立！」では、子どもたちの人生を丸ごと応援するため「なごや子ども応援委員会」の充実に努めています。また、貧困問題など困難を抱えた子どもたちに対して、基礎基本の定着を目的とする学習指導により学力の二極化に対応できるようサポートを行っています。

「なごやっ子」の育ちと針路を応援する仕組みを確立！



11 → 36校へ拡充
(カウンセラー配置中学校数)

★ 応援委員会設置校
★ スクールカウンセラー配置校

歴史や文化を大切にすることを育み、世界にはばたく力を育成！

日本・ナゴヤの歴史や文化の駒に誇りを持ち、自らのアイデンティティを形作る地域や家族などを大切にし、自分の考えを他人と分かちあう、グローバル社会で活躍できる人材を育成します。



郷土の歴史・文化への誇りと
アイデンティティの確立を目指します。

異文化への理解を深め、国際社会で通用する
知識・コミュニケーション能力の育成を通じ、
グローバル社会で生きる力を育成します。

第三の柱「歴史や文化を大切にすることを育み、世界にはばたく力を育成！」では、中学校の授業で活用できる副読本を作成するなど、郷土の歴史学習の充実を図り、自らのアイデンティティの確立を目指します。また、異文化への深い理解と主体性や積極性、チャレンジ精神を兼ね備えたグローバル人材の育成を進めています。

第四の柱「名古屋市教育振興基本計画^{※1}の重点的取組事項を力強く推進！」では、この大綱の理念を実現していくため、本市の教育分野全般に関する具体的・体系的な事業を定めた名古屋市教育振興基本計画を着実に実行していきます。大綱に特に記載された事業は、市長と教育委員会双方の尊重義務のもと力強く進めていきます。

名古屋市教育振興基本計画の重点的取組事項を力強く推進！

「グローバル人材育成教育の推進」、「子ども・教育に関する総合的・相違建設の整備」、「歴史の原の整備」など重点的取組の推進を図り、特に「学校トイレスポット」については、力強く進めます。



子どもの豊かな学びや教育環境の整備、
生涯を通じた学びの提供・支援など
名古屋市の教育の振興に関する計画

※1 名古屋市教育推進基本計画…教育環境の整備や教員の資質向上、家庭・地域との連携や生涯を通じた学びなど、本市の多岐にわたる教育の施策に関する基本的な計画

◆いじめ対策検討会議の答申を受けた教育委員会の対応について

平成27年11月、市立中学校男子生徒が自ら命を絶つという痛ましい出来事がありました。本市では、発生後、ナゴヤ子ども応援会議、教育委員会会議を緊急開催するなど情報の把握・対応に努めるとともに、いじめ対策検討会議^{※2}に事案の調査と検討を諮問し、平成28年8月31日、いじめ対策検討会議から再発防止の取組などを内容とする答申を受けました。

この答申を受け、同年9月2日、教育委員会として報告書を公表しました。報告書に基づく教育委員会の対応として、同年10月5日付けで、報告書の内容の共有・校内体制の見直し・改善など対応を指示する通知を各学校に送付しました。

悲しい出来事を二度と繰り返さないために、今回の報告書の提言を踏まえ、強い決意を持って再発防止に取り組んでまいります。

教育委員会の対応の内容

- ① 報告書の内容の共有・見直し・改善（学校へ通知）
- ② ハイパーQ U（学校生活アンケート）^{※3}の有効活用
- ③ 道徳教育・人権教育の充実
- ④ 自殺予防教育の促進

① 報告書の内容の共有・見直し・改善（学校へ通知）

- ・報告書について、全ての教職員での情報共有
- ・校内の職員の研修等を通じた共通理解
- ・点検活動表による校内体制の点検と改善



② ハイパーQ U（学校生活アンケート）の有効活用

- ・1回目のハイパーQ Uの実施状況の調査分析
→改善点等を周知
- ・2回目のハイパーQ Uの実施状況の調査分析・検証
→改善点等の周知
次年度以降に向けた活用のあり方を学校に提示

③ 道徳教育・人権教育の充実

- ・「いじめ防止教育プログラム」の内容を元にした、道徳の授業に関する資料を作成・配布
- ・道徳教育のためのハンドブックの作成を検討
- ・ING（いじめのない学校づくり）キャンペーンを通じた人権感覚の醸成



④ 自殺予防教育の促進

- ・自殺予防講演会の実施
- ・ストレスマネジメントの授業を実施
- ・自殺予防のためのDVDを活用した授業の検討
- ・その他自殺予防教育の計画的・効果的な実施を検討



その他の取り組み

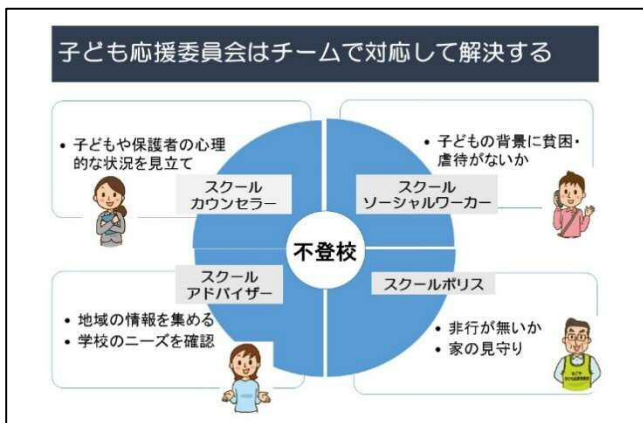
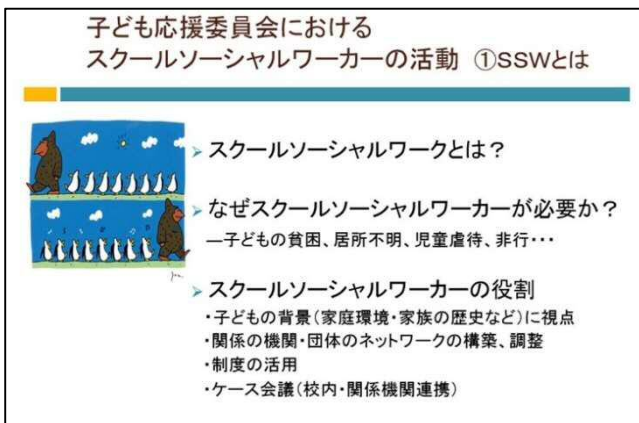
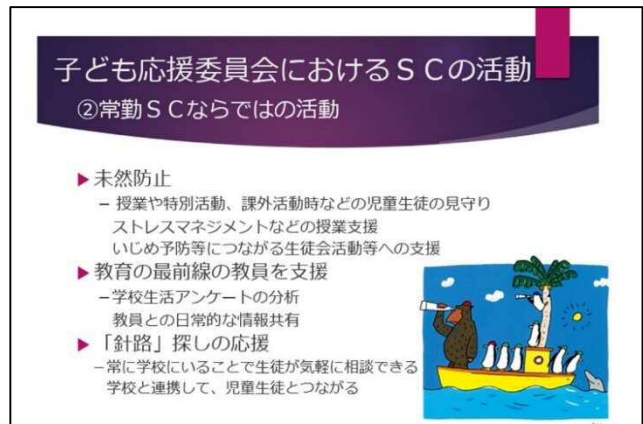
- ・「名古屋市いじめ防止基本方針」の見直し
→見直しを踏まえ、各学校の「いじめ防止基本方針」の見直し・改善を指示
- ・子どもたち同士のつながりを強める取組みの拡充

※2 いじめ対策検討会議…いじめ防止対策推進法に基づく教育委員会の附属機関。「いじめ防止等の対策」重大事態に係る事実関係について教育委員会に答申を行う。

※3 ハイパーQ U（学校生活アンケート）…子どもたちの意欲・満足感、学級集団の状況を測定する標準化された心理テスト。

◆なごや子ども応援委員会における活動報告について

続いて、なごや子ども応援委員会西ブロックのスクールカウンセラーである前田悦子さんと名東ブロックのスクールソーシャルワーカーである山内美砂さんから活動報告をしていただきました。



＜具体的な事例＞

○前田スクールカウンセラー

対人不安や緊張の高い生徒のケース。小学校の高学年から不登校で、中学校入学当初は登校しづりがみられ欠席することもあった。子ども応援委員会として小学生の時から学校、保護者、本人と関わり始めた。担任には見守りや声掛けを増やしてもらい、不安なときに少し休憩をとってからクラスに戻れる体制をとった。また、母とも面談を行い、学校と家庭の協力関係を整えることで、生徒は元気に登校できるようになった。

○山内スクールソーシャルワーカー

家族に対して暴言があり、学校に通えなくなった中学3年生のケース。母がひとり親で経済的にも精神的にも苦しく、本人も発達障害があり進路のことが考えられず自暴自棄になっていた。関係者でケース会議を開き、母と本人も交えて進路に向けての話合いを行ったところ、たくさんの方が関わって支援してくれることを知り前向きな気持ちになった。母も気持ちが安定し、生徒も学校に足が向くようになり高校に進学することができた。

報告の最後では、保護者の声を直接聞くことができ、周りの関係機関とも連携がしやすいという応援委員会の強みをいかして、「チーム学校」の一員として一人の子ども・家庭を切れ目なく応援し、子どもたちが自分らしく生きていけるよう、将来を語り合えるように学校、家庭、地域、関係機関の皆さまと「応援の輪」を広げていきたい、とお話がありました。

◆パネルディスカッション

<パネリスト>

名古屋市 長 河村 たかし

教 育 長 杉崎 正美

教 育 委 員 小栗 成男（企業経営者）

野田 敦敬（大学教授）

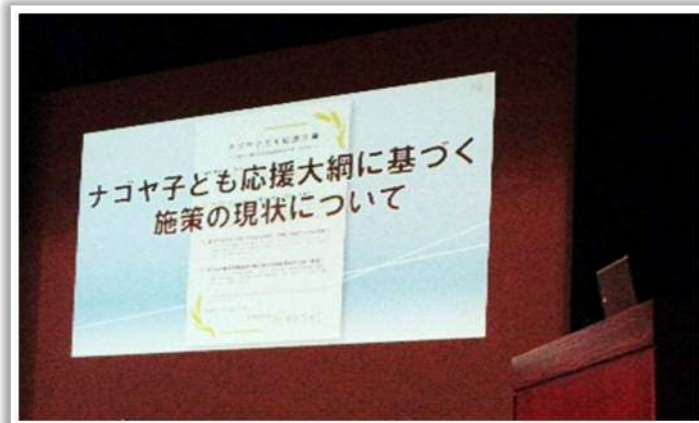
船津 静代（大学職員・キャリアカウンセラー）

梶田 知（企業経営者）

小嶋 雅代（大学准教授・医師）

福岡教育大学教授 西山 久子 氏

大阪府立大学教授 山野 則子 氏



<主な発言要旨①>



山野教授

- 文科省中央教育審議会答申で出された「チーム学校」の機能をどんなふうにも高めていくのか、国は全国に先がけた名古屋市の応援チーム、そして常勤で置いたことに着目している。
- 子どもや保護者が気になったり、不安で行きにくいところに一緒に見学に行ったり、例えば発達障害者支援センターと一緒に同行するなど寄り添ったり、代弁しながら自己決定を育むというソーシャルワーク活動は、常勤だからこそできる。名古屋だからこそ、よりできる。今後に期待したい。
- チーム学校といったら問題事案にだけ対応するみたいなイメージになっているが、それを広げて、学校を地域の拠点としたサービス提供できる仕組みを名古屋で着実に形を作ってくださいと思う。



西山教授

- 子ども応援委員会のスタッフは頭にスクールと付いていることが重要である。教育現場の中では、少なくとも義務教育が終わるまでに、よりよく成長して自分の人生をうまく乗り切っていける力を備えさせることを目指さなければいけない。
- 日本では先生が学級担任として子どもの人生をトータルに見ながら協働するという力も発揮されているので、先生方と相互の専門性をいかして、どう協働していくかがこれからの課題である。
- 名古屋の取組は道なき道进行することなので、様々な立場の皆さんと話しながら進められている本日のような会議は重要な機会である。



杉崎教育長

- 子ども応援委員会の展望については、この先も中学校110校に拡大していく。財政状況厳しい折だがきちっと増強していきたい。
- 先生方との信頼関係が一番大事なので、いい人材をきちんと確保して、先生方や地域とも信頼関係を持って、子どもを中心に据えて議論ができる、子どもを優先にやれるようにしていきたい。
- いじめ対策検討会議の答申に基づく対策では、いろいろな取組をやるけれども、子どもに心から寄り添う気持ちが重要である。
- 子どもたちを見る多くの目が必要だということで、この11月12日から子ども会の皆さんが子ども応援委員会のサポーターになって、登下校時や放課後の日常生活で異変に気付いたときに連絡してもらう取組を始める。
- 子どもたちが毎日いきいきと学校に通えるよう引き続き取り組んでいきたい。



小栗委員

- (スピーチ向上モデル校である) 正木小学校へ伺い、一年生、三年生、六年生のスピーチの場面を実際に見て、先生たちともコミュニケーションし、実際に子どもたちがやっている姿も見てきた。
- ここでは、双方向で話す側と聞く側が、同じように意図がつながっていっており、こういったことがどんどん広がっていくとよいと感じた。
- スピーチとかアクティブラーニングについては今後益々重要になっていくと感じている。人のことも聞く耳は持つけれども、はっきり自分でものを言えるような人が育っていくように、是非期待をしたい。
- こういった教育を継続して行っていく、是非、なごやっ子にはスピーチや自主的な行動ができる企業人になってもらいたいと思っている。

<主な発言要旨②>



野田委員

- 名古屋市の教員だった頃に、アメリカへ勉強に行かせていただいた。（アメリカでは）チーム教員になっておらず、子どもの数が半分くらいだった。良さを取り入れることは非常に大事で、とても大切だが、歴史の上で考えなければならないことではないか。
- 子どもの貧困率がどんどん上昇しており、知識や技能はもちろん、思考力・判断力・表現力、あるいは学びに対する意欲が、家庭の環境や経済状況にすごく影響しているという指摘がある。
- 中教審の審議の中に、特に低学年の頃に生じた語彙力の違い、これが後々すごく影響してくるというくだりがあった。本市は低学年を30人学級でやっているが、こういった低学年教育の充実を図っていくことが、子どもの貧困に対応する大事なポイントだと思っている。



船津委員

- 大学で就職相談をしていて、ある時期から非常に相談に来る学生たちが増えたタイミングがあった。（小中高等）学校で、スクールカウンセラーなどに相談した経験がある学生たちは、何かあった時、相談に来ることができるからではないかと思う。
- いろんな会話をして、その言葉にどういう意味があるのかということを考えてきた生徒たちは自分で考えて前に進んでいける。
- 子ども応援大綱も、子どもたち自身が応援されているという実感がない限り、空振りに終わる。子どもに寄り添うだけでなく、先生やPTAと話をして、地域とつながっていく取組が、子ども応援委員会の力となっていく。子どもたちが応援されているという気持ちになって成長していくには、子ども応援委員会の取組はとても大事である。
- 大綱の中で「大きくなったら何になるの?」とあるが、質問だけされると子どもは正解で答えなくてはいけないと感じる。「大きくなったら何になる?」と一緒に考えられるとよいと思う。



梶田委員

- 都市ブランドイメージ調査で、名古屋市の順位は、8都市中最下位だった。でも、私は8都市の中ですごく魅力のある都市だと思う。
- 名古屋まつりの原型は、400年前、徳川家康の三回忌に、大八車に西行桜の能人形を飾った山車が引き出されたことに始まる。250年の間に、名古屋はからくり人形の大産地となっていった。それがおそらく名古屋、愛知県のものづくりの原点ではないかと思う。
- こんな素晴らしい文化、歴史を持つ名古屋を、まず名古屋の子どもたちにちゃんと教えていく。その子どもたちが世界、他府県に行って、名古屋の歴史や文化、伝統を引き継いでくれる。また、ものづくりにも興味を持って今後の名古屋の経済を支えていってくれたらと思う。
- 是非、歴史を教える、文化を教えるということの重要性を認識しながら教育を進めていってほしい。

<主な発言要旨③>



小嶋委員

- いじめ・自殺予防対策といった具体的な対策はとても大事であるが、児童自身がまず健康の大切さ、そのための健康な生活習慣というものがどういうものなのか、そしてそれを身に付ける重要性というのを、低学年のうちから保護者と一緒に学ぶ必要があるのではないかと考えている。
- その上で、子どもたちは健康の大切さ、命の重さ、多様な個性を持つお互いを尊重する、共に協力して社会を作り上げていく、ということが分かっていくと思う。
- 公衆衛生においても、認知症になったり要介護状態となったりしても、地域で生き生きとお年寄りが暮らせるよう国を挙げて地域包括ケアシステムを整えてきた。
- 同じように、子ども応援委員会も、学校を核として先生方と協働して、地域の子どもも、お年寄りも、働く方も、心と体の健康をみんなで応援していくということが考えられるのではないかと考えている。



杉崎教育長

- 平成28年4月の教育長就任の挨拶の際に、「教育委員会はいわば『人生応援委員会』だ」という話をした。
- 子どもさんだけでなく、高齢者の皆さんや障害者の皆さんも教育だけに限らず、歴史・文化とか、スポーツとか全ての面で、元気に暮らすことができるような、そういう街であるべきと思っている。
- 教育委員一同同じ方向を向いて、教育振興基本計画をしっかりと実行できるように頑張っていきたい。



河村市長

- 日本のエデュケーションが成功しているか、なかなか悩ましい。
- 体が不自由であったり、親が離婚したりと色々な苦しみがある子どもたちに等しくチャンスが与えられて伸びていけるように、よほどの気持ちを持って取り掛からないといけない。
- 新しいことでは、子ども会連合会に非常に協力してもらうことになった。例えば、子ども会の人から「明日のソフトボールの練習に、一緒に私がついてあげるといいから、来たらどう」と声を掛けるような活動をスタートする。これは世界で初めてになると思う。
- 次の段階として、消防団の方にもご協力いただこうと今お願いしているところである。
- 相談件数から見ると、年間約1,000人の子どもの悲鳴に答えている。子ども応援委員会は日本で名古屋市しかない。




ナゴヤ子ども応援大綱

～ 日本で1番子どもを応援するまち ナゴヤ ～



「教育」を「Education」へ！

「教」の字の「攵」にはムチの意味が入っているといわれている。子どもを型にはめるのではなく、「Education (e=外へ、duce=引っぱること。)」の精神のもとで、「教え込む」授業ではなく、「子どもが考え、自ら学ぶ」授業を推し進め、子どもたちに内在する生きる力を引き出し、人生を応援します。



「なごやっ子」の育ちと針路を応援する仕組みを確立！

常勤のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールアドバイザーとスクールポリス（現在は非常勤）からなる4職種のチームで子どもを応援する日本初の仕組み「なごや子ども応援委員会」を確立して、悩みを解決し、目の前の進路にとどまらない「大きくなったら何になるの？」という将来の針路を応援します。
また、貧困問題に起因して深刻化する子どもの問題に正面から全庁的に取り組みます。



歴史や文化を大切に作る心を育み、世界にはばたく力を育成！

日本・ナゴヤの歴史や文化の魅力に誇りを持ち、自らのアイデンティティを形づくる地域や家族などを大切にし、自分の考えを持ち人前で堂々と話せる、グローバル社会で活躍できる人材を育成します。



名古屋市教育振興基本計画の重点的取組事項を力強く推進！

「グローバル人材育成教育の推進」、「子ども・教育に関する総合的な相談施設の整備」、「歴史の里の整備」など重点施策の着実な推進を図り、特に「学校トイレさわやか改修」については、力強く進めます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3第1項に規定する大綱として、上記のとおり定める。

平成27年5月24日

名古屋市長



河村たかし

ナゴヤ子ども 応援 会議 。 教育 シンポジウム

「日本で1番子どもを応援するマチ ナゴヤ」の実現のために

日時：11月6日(日) 13:00開場/13:30開会

会場：名古屋市教育センター講堂

当日先着700名まで。会場では手話通訳・要約筆記を行います。

入場無料
申込不要

【第Ⅰ部】教育シンポジウム (午後1時30分～午後2時30分)

講演「生きる力を育てる学力」

講師 齋藤 孝氏 (明治大学教授・教育学者)

東京大学法学部卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程等を経て現職。専門は教育学、身体論、コミュニケーション論。著書「声に出して読みたい日本語」はシリーズ260万部のベストセラー



写真提供：草思社

【第Ⅱ部】ナゴヤ子ども応援会議 (午後2時45分～午後4時30分)

内容「ナゴヤ子ども応援大綱に基づく施策について」

「なごや子ども応援委員会における活動報告について」

出席者 河村たかし 名古屋市長

教育委員会教育長・委員

西山久子 福岡教育大学教授

山野則子 大阪府立大学教授



河村たかし市長



西山久子教授



山野則子教授

◇「ナゴヤ子ども応援会議」とは、法律により全ての地方公共団体が設置することとされた、長と教育委員会で構成される「総合教育会議」の本市における呼称です。

この会議は、市長と教育委員会が教育に関する施策の方向性を共有し、ともに推進していくため、本市の教育に関する大綱の策定や、教育の振興に必要な重点施策などに関する話し合いを行います。

◇「ナゴヤ子ども応援大綱」とは、法律により長が策定することとされた、本市の教育の振興に関する目標・方針となるもので、昨年5月24日開催のナゴヤ子ども応援会議において策定されました。



◇住所◇

名古屋市熱田区神宮三丁目6番14号

◇アクセス◇

地下鉄伝馬町駅2番出口 北東へ5分

名鉄神宮前駅 南へ5分

J R 熱田駅 南へ10分

◇問合せ◇

名古屋市教育委員会総務課

電話 052 - 972 - 3207

平成28年11月開催のナゴヤ子ども応援会議の詳細については、

以下のリンク先をご参照ください。

<http://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000088120.html>

ナゴヤ子ども応援会議 教育シンポジウム 開催記録

平成29年3月

発行・編集 名古屋市教育委員会

お問い合わせ 名古屋市教育委員会事務局総務部総務課

名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

電話 (052) 972-3207

ファクシミリ (052) 972-4175

この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。